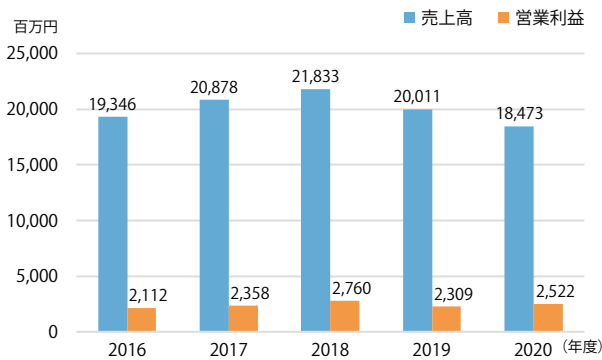


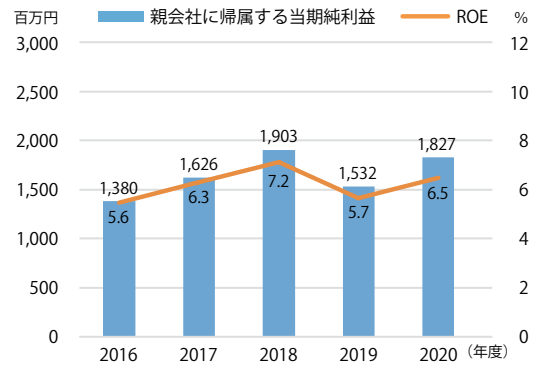
財務ハイライト

◆ 売上高、営業利益



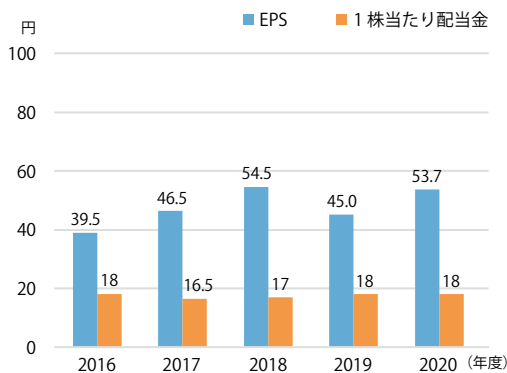
2020年度の売上高は、前期比7.7%の減少となりました。中国や韓国での販売が増加した一方で、日本での販売が伸び悩みました。営業利益は、原価率の改善に加えて経費削減に努めたこともあり、前期比9.2%の増加となりました。

◆ 純利益、ROE



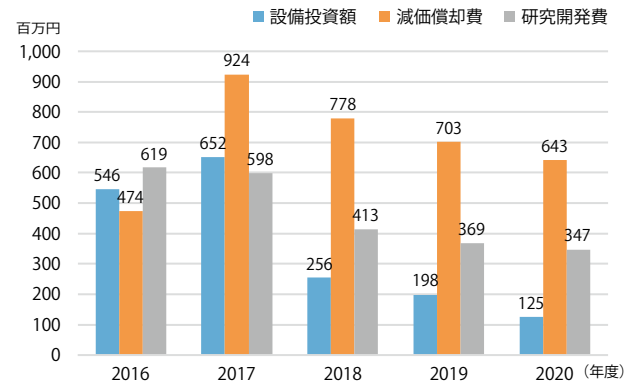
2020年度の親会社に帰属する当期純利益は、前期比19.2%増となり、営業利益の9.2%増を上回りました。これは主に為替差益が発生したことによるものです。ROEは6.5%となり、前期より0.8pt上昇しました。

◆ EPS、配当金



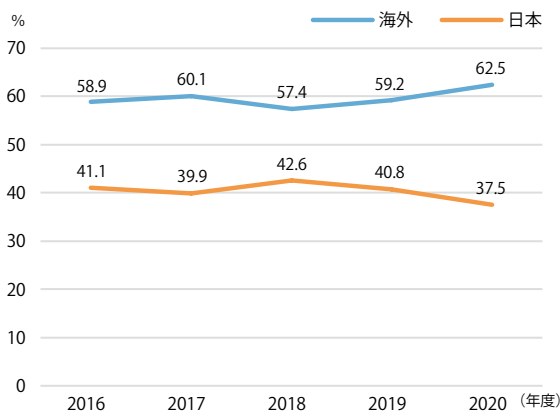
安定的・継続的な株主還元を実現するため、連結配当性向は30%以上を目標にしています。連結業績の向上を図り、普通配当の水準を引き上げていきたいと考えています。なお、2018年4月1日に1:2の株式分割を実施したため、2016～2017年の値は調整をしています。

◆ 設備投資額、減価償却費、研究開発費



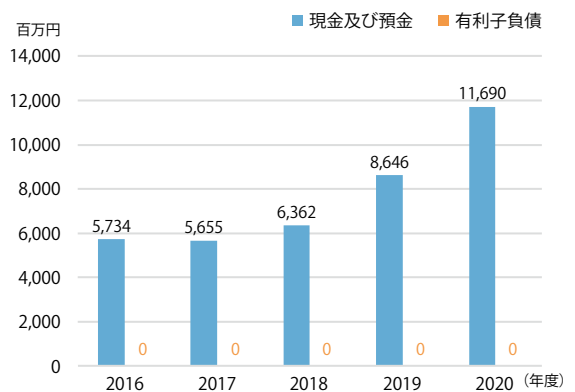
2016年の新本社工場建設に伴う減価償却費は、年々減少しています。研究開発費は、従来よりどのような経済状況下においても一定の投資を継続しています。

◆ 海外売上高比率



海外売上比率は、近年は60%前後で推移しています。2020年度は、国内市場の低迷、海外向け特注機の大型案件があったため、この5年間では高水準となりました。

◆ 現金及び預金、有利子負債



2016年の新本社工場移転に伴い、現金及び預金の水準が低下しましたが、直近3年は、大きな支出がなく現預金の比率が高まってきています。将来の需要増等、適切なタイミングで機動的な投資が行えるよう、備えてまいります。